

# 神戸だより

台湾交流支援の会 2019.6発行 Vol.20

## ＜ ACJC シルバーカレッジを訪問 ＞ 桑田 邦憲

私達の母校シルバーカレッジ(以下KSC)は6月10日シンガポールANGLO-CHINESE JUNIOR COLLEGE (ACJC・英華学校)の訪問をうけました。ACJCはシンガポールのエリート高校で、卒業生の多くはシンガポール大学をはじめ、欧米諸国の有名大学に進学しています。今回訪日したのはACJCの弦楽合奏団と合唱団の学生70名と引率の教師12名のグループで、彼らはシンガポール国内や欧米の音楽コンクールで金賞ほか数々の賞を獲得し、その技量は、高く評価されています。

今回ACJCは以前から交流の有る大阪手塚山高校との交流30周年を記念して、学生同士の交流と合同演奏会を目的に来日しました。またこれを機会に20年以上交流が続いているKSCへの訪問も実現しました。現在シンガポールでは出生率が1.2と少子高齢化が進み(日本は1.4)、社会問題となっています。将来のシンガポールを担う彼らも関心が高く、高齢者学習施設であるKSCを訪問し年齢の差、文化の差を超えた交流は大きな意味をもつという趣旨で来校しました。

午前9時、バス2台に分乗した学生たちが到着、KSCのホールで歓迎式の後、KSCが有るしあわせの村をバスで見学。KSCに戻った学生たちは6班に分かれKSC卒業生たちと懇親会を開きました。世代の違いは有るものの、KSCの歴史や活動についての質問やアニメについての話などが活発に行われ予定の時間は瞬く間に終わりました。



( ACJC到着 )



( 懇親会の様子 )



その後お昼休みに学生たちのコンサートが開かれ、合唱団は日本の歌曲を含む4曲、合奏団は「弦楽のための組曲」など3曲、そして最後には全員での合奏。さすが多くの賞を取り続けているチームで、その素晴らしい演奏にホール一杯になった聴衆も聞き入っていました。



## <タコ釣り> 高橋幹夫

今回は私の趣味のタコ釣りをご紹介します。

神戸市の西隣に明石(あかし)市があります。神戸市及び明石市は南側が海に面しており、対岸には淡路島があります。この海峡が明石海峡で世界で最も長い1991メートルの釣り橋「明石海峡大橋」が架けられています。

明石海峡は潮の流れが速く栄養分が豊富な海で豊かな漁場となっています。特に鯛とタコが有名で、明石鯛、明石タコとして高級料理店で使われています。

海の船釣は20人以上乗れる乗合船と6人程度の貸し切り船があります。私は仲間6人と貸し切りの船で釣行します。釣り時間は朝6時頃から12時頃までで費用は一人6000円～8000円程度です。

タコ釣りの季節は6月～9月で、漁師は“たこ壺”という小さな壺を沢山ロープにつけて海底に沈めタコが入るのを待って引き上げますが、釣り人は竿又は手釣りです。タコ釣りの仕掛けは20センチ程度の大きな長い針に餌を結びつけ錘をつけたもので、餌は鶏肉、小魚、肉などで結構雑食の様です。この仕掛けを海底に投入し海底を引きずるようにして、時々仕掛けを動かしタコを誘います。タコの注目を引く為に、上記の仕掛けに金色銀色のテープや各自工夫のデコレーションを付けます。いかにタコの気を引くかがポイントです。タコが仕掛けを見つけると長い脚で餌をさぐり感触を確かめ餌を抱え込みます。この時釣り人は釣竿に違和感のある重さを感じます。

ただこの時すぐ引き上げてもタコはすぐ逃げてしまいます。この引き上げるタイミング、タコとの駆け引きが何とも言えない楽しみであり興奮です。かかり方が悪いと引き揚げて来る途中で逃げてしまいます。

以前、タコを引き上げて来る時非常に重く大物の感触で大興奮、期待が高まりました。ところが引き上げてみるとタコが自分と同じような大きさの石を抱えていたのです。タコの気持ちとしては必死に釣られないように石に抱きついていたのでしょう。タコが小さくガッカリでした。釣果はその時の気象条件、潮の流れ、季節により左右され悪い時はゼロ、多い時は10匹以上の時もあります。

さて、タコの料理ですが、タコはヌルヌルとしたヌメリがあるので塩をかけて揉んでヌメリを落とします。熱湯で茹でたら下処理は終わりです。そのまま刺身で食べたり、煮物や唐揚げにしたり、米と一緒に炊いてタコ飯にしたり食べ方は様々です。

